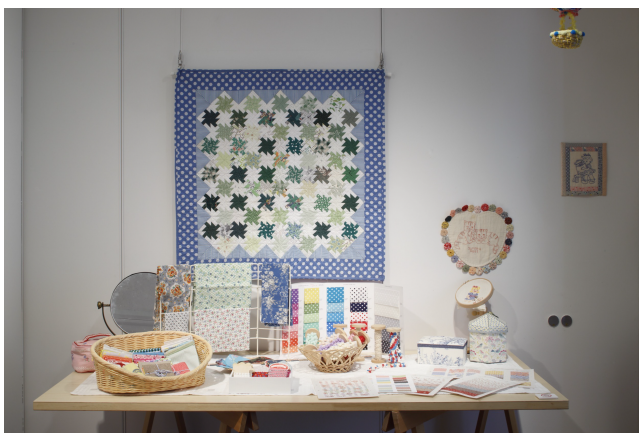


デザイン専攻 アートプロデュース研究領域

ナカムラ シヅカ

中村 しづ香



reminiscence

インスタレーション、木製カンヴァスにアクリルガッシュ、映像

reminiscence

本研究は、幼少期より関心を寄せてきた 19 世紀イギリス文化を起点に、自身の絵画表現におけるルーツを明らかにし、そこから新たな表現の展開を探ることを目的とした。

研究方法として、文献調査、作品制作に加え、テート・ブリテンで開催されたイギリス女性画家にフォーカスした展覧会「NOW YOU SEE US : WOMEN ARTISTS IN BRITAIN 1520 – 1920」(2024 年 5 月 16 日～ 10 月 13 日)を鑑賞するなど現地調査を行い、その過程で出会ったヘレン・アリングガム(1848 年～1926 年)の作品に着目した。

アリングガムの描く風景は、初めて目にするものでありながら懐かしさを感じる一方で、その感覚が自身の実体験に基づくものではないという違和感があった。この懐かしさはどこから生じるのか、また風景画におけるノスタルジーとは「実在する場所」に由来するものなのか、それとも鑑賞する私自身に依存するものなのかという点について探るため、二回目の渡英をし、彼女の活動の地であるサリー州を訪れた。ここでは、当時のアリングガムのように水彩絵の具を用いて、实景を直接観察しながら風景画を制作し、彼女の制作環境を追体験した。

現地調査を通して、アリングガムの風景画に感じる懐かしさは、必ずしも私自身の記憶に基づくものではないことに気がついた。アリングガムの描いた实景そのものは再現不可能であるが、場所自体は現在も存在し続けている。風景画におけるノスタルジーとは実在する場所そのものではなく、私自身の記憶と感情によって構成されるものであるという結論に至り、もう戻ることのできない過去の瞬間を表現しようと考えた。

以上を踏まえ、修了制作として自身の記憶に根ざしたノスタルジーをテーマに、インスタレーション作品《reminiscence》を制作した。本作は母がかつて働いていた手芸店を題材とし、現在は失われたその空間を、パッチワークや什器、布生地、働く女性の映像投影によって再現した。